

と広げよう つなげよう 地域助け合い

活動の現場から



町内会主体の有償ボランティアで 「近所力」をアップ！ 支え・助け合う地域づくりを

泉ヶ丘きばいもんそ会（鹿児島県）

地域を元気にしたり、住民同士の絆を強めるために、知恵を絞ってさまざまな活動に取り組み自治会や町内会が増えています。鹿児島県鹿屋市でも、市内では初の、町内会が主体となった有償ボランティア「泉ヶ丘きばいもんそ会」が誕生、その試みが注目を集めています。関係者にお話をうかがいました。

（取材・文／城石 眞紀子）

地域のためにきばいもんそ！

九州本土最南端へと伸びる大隅半島

のほぼ中央に位置する人口約10万人の鹿屋市。大隅地域の交通・産業・経済・文化の中核であり、国立の鹿屋体育



昨年5月20日の開所式

大学や日本一となった和牛の産地としても全国的にその名が知られている。「泉ヶ丘きばいもんそ会」は、この鹿



参加者全員による「助け合い体験ゲーム」(左)を行い、最後は地域住民交流会(みんなの食堂)で泉ヶ丘おごじょ特製の料理を楽しんだ

屋市の市街地中心地区からほど近い泉ヶ丘町内会(寿6丁目)が主体となつて

活動する有償ボランティアアグリプである。同町内会の規模は、市営住宅、県営住宅、一戸建てを合わせて269世帯、人口563人。高齢化率は23・8%で

市内平均の28・4%を下回つてはいるものの(2018年10月1日現在)、独居や夫婦2人

だけの高齢者世帯も増えており、誰もが安心して暮らせる地域を目指して、昨年5月、鹿児島の方言で「頑張りましょう」の意味を会の名前として発足した。

各地で生活支援体制整備事業の推進が実施される中で、町内会主体の有償ボランティアは鹿屋市で初。泉ヶ丘団地集会所の多目的広場で行われた開所式には、関係者、住民合わせて約100人が参加。来賓には鹿屋市保健福祉部長はもとより、厚生労働省九州厚生局地域包括ケア推進課課長も出席するなど、この取り組みへの期待感の表れがうかがえる。

「地域のちよつとした困りごとをご近所同士で助け合えたらと思ひ、会を発足しました。気軽に、助けて」と言え、また助ける側も気を遣わないですむのが有償ボランティアのいいところ。立ち上げのノウハウも活動のノ

ウハウも
ない自分
たちが本
当にやれ
るのだろ

うかとの不安や葛藤もありましたが、行政や市社協、生活支援コーディネーターなどの関係者と20回以上にわたり協議を重ね、段階的に課題を整理したことで、船出することができました」

こう語るのは、町内会長で、きばいもんそ会代表の上籩紀男さん(77歳)。

きつかけは独居高齢者の孤独死

泉ヶ丘町内会が、住民主体の地域づくりを始めたのは15年。きつかけは、市営住宅で起こった94歳の独居女性の孤独死だった。

「ご近所の方から『昨夜から電気がずっと付けっぱなしの状態になっていてどうも様子がおかしい』と民生委員に



誠実な人柄で人望も厚い上籩町内会長

連絡が入り、一緒に駆け付けたところ、すでに亡くなられていて…。ショックでした」

こんな悲しい出来事を二度と繰り返してはならない。「何とかせないかん」と市社協へ相談に行った上蘭町内会長は、アドバイスを得て「支え合いマップ」づくりを実施。地域の気になる人（支援が必要と考えられる人）とその人への住民の関わりを住宅地図に落とし込んだ住民情報を基に、同年、有志約10名が見守りを行う「泉ヶ丘ふれあい隊」を結成した。

「隊員は独居高齢者を中心とした対象利用者（20代～80代）を見守りながら、困りごとの相談などにも対応。月1回定例会を行って情報交換をしてみました。『ごみ出しや草取りなどをちょっとお手伝いしただけなのに、お菓子やビールをお礼として持って来られてかえって気兼ねしてしまっただ』という

た報告がありました。助けられる側だけでなく、助ける側も気を遣ってしまいう現状を何とかできないかとの話が出たことから、以前から興味があった有償ボランティアの検討を提案させてもらったんです」

まずはニーズを探ってみようと、17年7月、町内の65歳以上の住民を対象にアンケート調査を実施したところ、実に9割以上の人が「有償ボランティアを利用したい」と回答。「有償なら頼みやすい」「対等にものが言える」などが主な理由だった。

「そこからですね、市の生活支援コーナーネーターなどに相談し、立ち上げに向けての協議が始まったのは。途中、10回ほど話し合いを重ねたところで、うちではとても無理だ、もうやめよう」といった雰囲気になったこともありましたが、でも、関係者のみなさんが本心に根気強く、一生懸命支えてく

れましてね。今振り返っても、その支援がなければとても会を立ち上げることはできなかったと思います」

みんなの熱意がひとつになって

きばいもんそ会では、立ち上げまでの道のりで何が課題となり、それをどう整理・解決していったのか。生活支援コーナーとして関わった豊園千鶴さんに聞いた。

「まず最初の課題は、有償ボランティアへの理解を醸成することで。当初、



立ち上げに尽力した関係者の皆さん

泉ヶ丘きばいもんそ会 活動員登録カード

記入日 平成 年 月 日

ふりがな		生 年 月 日	性別
氏名	T・S・H	年 月 日	男・女
住所	〒 電話・携帯		
活動内容	①ゴミ出し/月 ②簡単な掃除 ③電話交換・電化製品の取り扱い ④簡単な裁縫 ⑤室内の炊具等の移動/入 ⑥書籍の代読・代筆 ⑦おかずの提供 ⑧簡単な遊仕事 ⑨簡単な節電 ⑩簡単な大工仕事 (⑩は別途の項目に)		
活動日・時間	活動できる日・時間帯に○をつけてください		
	月	火	水
	木	金	土
	午前		
	午後		
	その他 不定期の都合の悪い時間帯・休み等()		
免許・資格、所属分野			
お手伝い内容について	(手伝いできること)		
	(手伝いたいほしいこと)		

泉ヶ丘きばいもんそ会

活動員に書いてもらう登録カード

住民の皆さんには、『これまで好意で支え合い活動をしてきたのにお金を取るの?』との戸惑いがあったからです』

そこで、さわやか福祉財団の「助け合い活動DVD」(P41参照)を見てもらったたり、鹿屋市生活支援体制整備アドバイザーでさわやかインストラクターでもある、NPO法人隣の会代表の齋藤鈴子さんにも加わってもらい、

とを説明。先進地の事例を学ぶために南大隅町社会福祉協議会にも向いてもらい、その活動を紹介することで情報共有に努めた。

「これに半年ほど費やしました。それと同時に、必要な書類の簡素化、仕組みの簡便さのノウハウなどを伝えていく中で、具体的な活動のイメージも湧いてきたのでしよう。だんだんと皆さ

ら、立ち上げ等の準備にかかる経費をどうやって捻出するかが、次なる大きな課題でした」

国の総合事業を活用することも検討したが使い勝手が悪く、市の町内会活力推進交付金もどうなるかわからない。そこで、さわやか福祉財団が「連合・愛のキャンパ」資金を元に行っている新規立ち上げ支援の助成に応募した。

「ダメもとで応募したところ採用に。助成金15万円で、パソコンやプリンター、ユニフォーム、携帯電話など必要な物品はほとんどそろえることができてありがたかったです」

そしていよいよ立ち上げへ。ところが、具体的な支援内容を決める段にな

有償ボランティアとはお金の目的ではなく、謝金は活動を円滑にする知恵の一つであり、地域の結び付きを強くする取り組みであるこ

んの意識も、やってみようか、と前向きに。

ただ、立ち上げ等の準備にかかる経費をどうやって捻出するかが、次なる大きな課題でした」

国の総合事業を活用することも検討したが使い勝手が悪く、市の町内会活力推進交付金もどうなるかわからない。そこで、さわやか福祉財団が「連合・愛のキャンパ」資金を元に行っている新規立ち上げ支援の助成に応募した。

「ダメもとで応募したところ採用に。助成金15万円で、パソコンやプリンター、ユニフォーム、携帯電話など必要な物品はほとんどそろえることができ



長年、市民活動に携わる齋藤さん

って協議は難航。

「したい支援、できる支援を挙げてもらおうとしても、なかなか発言がなくて、話し合いが止まってしまったんです。でももう、開所式も迫っていたので、まずは支援者に登録書類を提出してもらったところ、手伝いできること」という項目にいろいろ書かれていてできる支援がたくさん。最終的には12項目もあって、それを目にしたときには『これで良い地域づくりができる』と興奮しました。それは皆さんも同じだったと思います」

最後のほうは月に2〜3回のペースで集まって協議。市の職員も積極的にサポートしてくれ、みんなの熱意が一つになっていく手応えを感じたという豊園さん。

「私にとっては、生活支援コーディネーターとして初めて手掛けた仕事でした。最初はどう関わっていいのかかわか

らず、齋

藤さんいろいろな教わりながらやっ

ていまして、孤独死をきっかけに地域を何とかしたいという皆さんの思いにに応えたいとただただ必死。一つの活動をつくり出すのは簡単なことではありませんが、一緒に考えながら協力し合うのはすごく楽しい作業で、おかげで自分自身も成長できたように思います」

そんな豊園さんを陰になり日なたになりバックアップしてきた齋藤さんは、「生活支援コーディネーターは失敗を恐れずに目標を決めて共有することが大事であり、回を重ねることで課題も整理されて信頼関係ができる。そしていちばん大切なのは、住民の活動したいを応援すること」とその役割に



介護の現場で経験を積んできた豊園さん

ついで話し、「豊園さんはそれを見事実践していました」と話してくれた。

地域の役に立てることが喜びに

開設から1年。有償ボランティアを

行う活動員

は現在、小

学生から84

歳まで15名。

「たすけあ

い券」(1

冊1000

円)を購入

した利用会

員からの支

援依頼を受

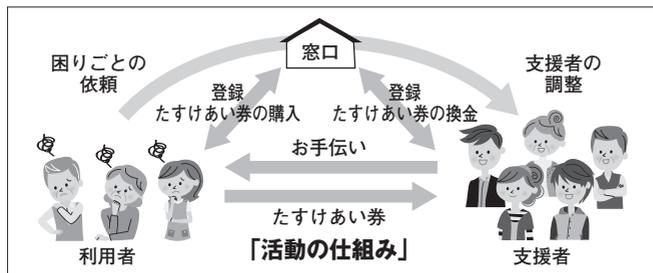
けて、事務

局がマッチ

ング。活動

員はお手伝

いの対価と



して利用会員から「たすけあい券」を受け取り、事務局で換金するシステムだ。

「活動状況としては、当初は月2〜3件だった依頼が最近では月6〜7件に増えてきました。多いのは、ごみ出しや庭の草取り・剪定など。ごみ出しは数

件あり、そのうちの1件は小学生の男の子に依頼しています。ニーズに応じて当初メニューにはなかった、飼い主

が亡くなったペットの餌やりにも対応。最近その猫が亡くなって、ずっと面倒を見てきた支援者は、葬式にまで付き添って泣

いたと言
つていま
した」
（上蘭さ
ん）。

また、
活動員同



会の黄色いベストを着用して活動

士で助けたり助けられたりといったケースもある。夫婦2人暮らして妻の介護をしている高齢男性の活動員は、自分が体調不良のときや不在時に話し相手や生活支援をしながらの見守りを定期的に利用。「大変助かっている」との声も聞かれる。

「活動員の中には料理が得意な女性もいて、季節の行事食（餅や恵方巻きなど）を希望者に安く販売。84歳という高齢で、大変だから」とこちらが気遣

っても、「地域のの人に喜んでもらうことが私の生きがいでから」と。朗らかな方でみんなの人気者です。私自身も

剪定などのお手伝いに行きますが、夏の暑いときは2〜3時間も作業をする

と汗びっしょり。でも、こんなに気持ちのいい汗はありません。みんな地域の役に立っているのがうれしんです。せっかく始めたからには仲間を増やして、もっと頑張っていきたいですね」（上

蘭さん）

気兼ねなく支援を頼める場が仕組みとしてでき、公然とお節介が焼けて、さらには活動している人たちが楽しんでい

「町内の住民が隣の町内在住の親戚の草払いを頼んだり、隣の町内会からも依頼があったりと、支援の内容に満足されて口コミで広がりを見せています」（豊園さん）

反響大きく、周囲へと広がる活動

町内会主体の有償ボランティアは、既存の組織を生かしてできるご近所によるご近所のための助け合いであり、介護保険利用の抑制にもつながることから行政にとっても魅力的だ。そのエッセンスを取り入れたいと、きばいもんそ会には奄美や沖縄からも視察が訪れ、各地に反響が広がっている。

鹿屋市内においても、18年9月には

高須町内会で住民主体による有償ボランティア「高須たすけあい隊」が発足。今年7月をめどに、近隣の寿3丁目町内会でも同じ名称の「きばいもんそ会」が立ち上がり、互いに協力しながら活動していこうとの動きもある。

「身近なところで立ち上がると、それをお手本として、あそこでできるのだから、うちでもやってみよう」という機運が高まるのでしようね。そうした芽があちこちから出てきているのは、うれしい限りです」（豊園さん）

そして泉ヶ丘町内会では、新たな取り組みにも着手。上蘭町内会長が発起人となって小学校区5町の町内会長に呼び掛け、子ども食堂をつくる計画を検討中。

「母子家庭が地域に多いため、子育て世代への支援にも取り組みたいの思があるそうです。こうした居場所があれば、その集まりから有償ボラン

ティアをしてもらえる子どもの活動員が増える可能性もあります。鹿屋体育大学で先日は、鹿屋体育大学が主体となって広めている「スクエアステップ」という健康体操の体験会を実施しましたが笑い声が絶えず、すぐに始めてみよう、と泉ヶ丘集会所で運動サロンを開催することも決定しました。

（豊園さん）

ますます活性化する地域づくり。こうして各地域での実績を積み重ねていけば、有償ボランティアの立ち上げや運営資金などにさまざまな人や組織が支援に乗り出してくれるかもしれないし、それがまた活動に拍車をかけることを期待したい。今こそ、助け合いに取り組み好機である。

泉ヶ丘町内会の住民を対象に、「困ったときはお互いさま」の精神に基づいて相互扶助の理念を広げ、援助活動や自助努力を支える自主的な扶助活動を、地域の中で育てていくことを目的に設立された有償ボランティアの会。主なサービス内容は、①軽易な家事の一部支援（おかず作り・裁縫・掃除・ごみ出し・電球交換・家具の移動など）、②話し相手（見守り）、③病院付き添い、④軽易な庭仕事の一部支援（草取り・水まき・種まき・定植・剪定・大工など）、⑤子育て支援活動（子守り・ごみ出し・おかず作りなど）。利用者は事前登録が必要で（登録料は町内会員300円、未加入者600円・初回のみ）、1冊1000円の「たすけあい券」を購入。利用料は30分300円、1時間600円となっており、支払いは「たすけあい券」で行い、毎月の定例会で支援員に活動費として同金額を支給する仕組みとなっている。

泉ヶ丘きばいもんそ会

●連絡先／〒893-0014 鹿児島県鹿屋市寿6丁目 泉ヶ丘団地集会所
TEL 080-3964-9515